

# 本納城と黒熊大膳亮

くろくまだい せんのおすけ

No.366

平成30年10月

一 諸書に見える黒熊大膳亮  
従来、本納城主として黒熊大膳亮あるいは黒熊大膳佐の名が十七世紀以降に書かれた『土気城双廃記』および『本納地覧黒熊実紀』等の史料に記載されています。しかし、戦国時代である十六世紀に記された一次史料には、「黒熊」という名は全く見当たりません。永禄十二(一五六九)年十二月二十八日付の「北条氏康書状」に、「本納城の外曲輪(鞘戸城)が安房の里見氏に乗っ取られたという知らせを受け、氏政が出馬したがすでに退散してしまった」という古文書が残されているほかは、本納城関係の史料はほとんどありません。

このような状況下で、かつて佐藤博信氏は、『千葉城郭研究9号』の中で、「近世の軍記物の世界で酒井氏以前の本納城主としてみえる黒熊大膳景吉とは黒駒氏ではないか」とし、黒熊氏を長南武田氏の関係者と推定しています。さらには、「右衛門郭」という曲輪名の存在から、板倉右衛門は、「逆に城主ではなかったことを示唆する」として、「本納城は基本的には城代支配であったと推察される」と述べています。

二 実在した黒熊大膳亮  
このたび、茂原市吉井上の「小川家文書」の中から、『御縄入帳』と題する慶長十六(一六一一)年に作成された一次史料ともいえるべき貴重な検地帳が確認されました。それには、「慶長九辰年前迄大城代 黒熊大膳守様 高老万石城 本納御知行所 慶長九辰年迄」云々という文言



御縄入帳

が明示されています。官職名は異なりますが、大膳亮の末裔ということも想定できます。また、ページがまたがっているものの明らかに黒熊大膳守の肩書と思われる「大城代」や「高老万石城」という語句が注目に値します。一万石といえは江戸時代では大名ですが、米一万石が収穫できる領地として、10アール当たり一石で単純計算すると10kmになります。実際には野山などがあり、もっと広くなるでしょうが、当時の本納周辺でも十分可能な面積と考えます。

土気の酒井氏に対し謀反を起こし、滅ぼされたはずの黒熊氏と、この黒熊大膳守の関係等、さらに究明しなければならぬ点はあるにしても、今まで江戸中期以降の二次史料でしか確認できなかった「黒熊氏」の実在が証明されたと言っても過言ではないと思います。現在、新茂原市史の編さんが進められています。さらに新史料が発見され、発展することを期待します。

茂原市文化財審議会委員

小川力也

## 文芸コーナー

### 短歌

薄白く月照らす原虫達の

声涼やかに月見草咲く

山本 明美

引越しの荷ほどこき前のダンボール

山と積まれて寝床作れず

時女 礼子

立秋の声聞き少しほっとする

平成の猛暑も終わりに近づくと

菊地ミトリ

### 俳句

一本の線香の香や初の盆

伊藤 薫

向日葵に勝る笑顔の子ら愛し

武居 敬子

### 川柳

子は親を選べなかつた虐待死

荒木庄二郎

長生きへサンマ不漁が気に掛かる

稲子 勝久

鍵穴を覗き見煽る週刊誌

大井 康章

予報士の服装日毎替えて見せ

大久保 稔

健康へ野菜の量をポイント化

小野與四法

建前も本音も見てた再生紙

福田 研治

土俵割る爪先ビデオ見極める

高橋由紀子

在宅の看護笑顔も忘れない

塩田 加門

もうダメと言いつつ箸は置いてない

千葉加津子

年寄りには昭和演歌でスイーツオン

横田 清

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。  
●投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。

※俳句、短歌、川柳の原稿送付先

〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市役所秘書広報課宛「文芸コーナー」と朱書きしてください。